

令和5年1月31日

日置市リサイクルプラザ整備運営事業に関するサウンディング型  
市場調査の対話結果の公表について

1 サウンディング型市場調査実施の経緯

日置市（以下「本市」という。）では、日置市クリーン・リサイクルセンターにおける一般廃棄物（家庭ごみ）再資源化を行うための中間処理施設の老朽化対策や新たな法施行による製品プラスチックの再資源化処理対応など、将来にわたり持続可能で効率的な再資源化処理事業の実施につなげるため、直接対話による意見交換（サウンディング型市場調査）を実施しました。

2 サウンディングの実施スケジュール

令和4年11月4日（金） 実施要領の公表

令和4年12月1日（木）～令和5年1月20日（金） 調査の実施

令和5年1月30日（月） 調査結果概要の公表

3 サウンディング参加者

1者

4 サウンディング結果の概要

対話テーマ	対話概要
対話テーマ（1） 再資源化又は再資源化 に向けた中間処理が可 能と考えられる一般廃 棄物の品目について	①プラスチック製容器包装 ②プラスチック製品 ③ペットボトル ④紙類 ⑤布類 ⑥ビン類 ⑦缶類 ⑧金属 ⑨家電製品 ⑩水銀含有廃棄物 ⑪不燃ごみ ⑫粗大ごみ ⑬その他（乾電池・スプリングマット等）  ・回答した品目以外でも今後処理を検討していくことは可能である。

<p>対話テーマ（２）</p> <p>再資源化又は再資源化に向けた中間処理方法について</p>	<p>①プラスチック製容器包装</p> <p>現状のリサイクルセンターと同様に選別ラインを使用して人手による選別後圧縮・梱包を施し、再商品化事業者へ引渡すまでの間、屋内のストックヤードに保管（飛散流出防止）する。</p> <p>②プラスチック製品</p> <p>リチウムイオンバッテリーや金属類の混入も予想されることから、容器包装プラスチックと同施設での選別後、プレス機により圧縮・梱包を施し、提携の再商品化事業者へ引渡すまでの間、屋内ストックヤードに保管する。</p> <p>③ペットボトル</p> <p>空き容器類専用の選別ラインを用いて選別後、プレス機により圧縮・梱包を施し、提携の再商品化事業者へ引渡すまでの間、屋内ストックヤードに保管する。</p> <p>④紙類</p> <p>人手による選別を施した後、専用プレス機で種類毎に圧縮・梱包し製紙メーカーへ引渡すまでの間、屋内ストックヤードにて保管し、提携の製紙メーカーへ売却する。</p> <p>⑤布類</p> <p>一般廃棄物処理施設（設置許可取得）にて固形燃料化し、ボイラー燃料として利用する。（現状では再利用のニーズが乏しい）</p> <p>⑥ビン類</p> <p>③と同様に選別して保管後引渡し、ガラス製品として再生利用する。</p> <p>⑦缶類</p> <p>③・⑥と同様に選別し、スチールとアルミを別個にプレス・保管し、製鋼所或いはアルミ製品製造事業者へ引渡す。（売却）</p>
---	---

	<p>⑧金属</p> <p>主に不燃ごみと粗大ごみから回収される金属類と考えられるが、それらを破碎後に磁選・アル選、人手による選別を施し、素材別に回収して製鋼所や製品製造メーカーに引渡す。(売却)</p> <p>⑨家電製品</p> <p>⑧と同施設にて破碎・選別後に金属類は回収し、プラスチック類は製品プラと同様に取扱うことで再資源化率を高める。</p> <p>⑩水銀含有廃棄物</p> <p>選別・梱包後に保管して既存のルートでリサイクルまたは専用破碎機で処理後、ガラスと粉体に分離して独自ルートでのリサイクルを行う。</p> <p>⑪不燃ごみ</p> <p>破袋して内容物を確認し、スプレー缶・ガスボンベ、リチウムイオンバッテリー等の発火・爆発の危険性を有するものを除去した後、選別して有価金属を回収し、残渣類は市の指定した処分場へ搬出する。(簡易選別にて対応)</p> <p>⑫粗大ごみ</p> <p>破碎・選別後に金属類は回収し、残渣類は固形燃料化または市の指定した処分場へ搬出する。(簡易選別にて対応)</p> <p>⑬生ごみ</p> <p>本市の生ごみ堆肥化リサイクル事業により処理する。</p> <p>⑭リユース</p> <p>持込まれた不燃ごみや粗大ごみの中からリユース可能品を回収し、それを必要とする日置市民へ譲渡し、ニーズがなかったものについてはリユース事業者へ引渡すことで廃棄物の削減を目指す。</p>
対話テーマ (3)	<p>・ 処理施設整備は、利便性、効率性を考えても日置</p>

<p>処理施設について</p>	<p>市内で整備を進めるべき。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後 20 年～30 年の使用を目指し、現リサイクルセンターは使用せず新施設に投資して使用した方が長期的にコストとリスクの低減に繋がる</li> </ul>
<p>対話テーマ（４） 事業を行うことによる 発注者（本市）のメリ ットについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日置市内の既存の民間許可施設を活用することは低コストかつ高効率である。</li> <li>・ 地元雇用やそれに伴う地域活性化に繋がる。</li> <li>・ 老朽化施設を継続使用することで考えられる費用負担やリスクを十分にカバーできる。</li> <li>・ 長年積み上げた信頼と実績を誇る民間事業者を活用し、そのノウハウや知見を利用することが最大のメリットと考える。</li> </ul>
<p>対話テーマ（５） 事業による B C P につ いての考え方</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 処理施設を複数有しているため、日置市施設で災害や故障が発生した場合、復旧するまでのバックアップ機能は十分に果たすことが可能である。</li> <li>・ 有事の際に人員を配備できるだけの雇用数がある。</li> <li>・ 資金も確保しており倒産のリスクは低い。</li> </ul>
<p>対話テーマ（６） 同時に処理することで 効率的な処理業務とな る得る処理品目につい て</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 同時処理が可能な設備であることを前提とするならば、容器包装プラと製品プラまた缶・ビン・ペットボトルも同時処理は可能である。</li> <li>・ 効率的であるかどうかは設備と作業従事者の能力にもよるので一概には言えない部分もある。</li> </ul>
<p>対話テーマ（７） 処理実施にあたっての 契約条件等について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今回の計画は、設備投資額として非常に大きくなる。</li> <li>・ 資金に関しては当然ながら長期借入金での対応をせざる負えない。</li> <li>・ ごみ処理という性質上、長期的・安定的に処理することが前提である。</li> <li>・ 人の生活様式の変化に伴ってのごみ質の変化、関連法の変化などごみ処理施設も時代や環境に合わせて変化していく。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・長期契約のもと計画的に運営・管理・設備改善・働き手の教育及びスキルアップを行わなければならない。</li><li>・契約期間に関しては長期締結が望ましい。</li></ul> 契約期間 20年～30年 処理業務開始時期 令和7年4月予定
--	--

## 5 サウンディング結果を踏まえた今後の方針

今回のサウンディングにより、検討が必要な事項を含め、多くの御提案をいただきました。今後、サウンディング結果を踏まえて、事業者公募を実施していく予定です。